

平成25年度 防大夏季定期訓練激励

防衛大学校の夏季訓練に併せて、部隊実習訓練に参加する3学年を激励するために、今年度も防大同窓会から激励金を贈呈するとともに、同窓会長が現地へ赴き、激励を行った。

激励金の贈呈については、訓練開始前の6月24日（月）に、菊川・同窓会理事が防衛大学校へ赴き、学生総員の前で3学年代表に手渡した。

また、永岩・同窓会長による部隊実習激励については、今年度は3学年海上要員の航空部隊実習を対象として、7月12日（金）に鹿児島県の海上自衛隊鹿屋航空基地において実施した。

今年度の防大3学年海上要員の航空部隊実習は、7月9日（月）から12日（金）の間、八戸・下総・鹿屋の3か所に分かれて実施され、この内、鹿屋航空基地での実習は、女子学生7名を含む学生45名が参加した。実習は、部隊側の計画により「基地に所在する各部隊の研修」「P-3C哨戒機の体験搭乗」「課題研究」等、盛り沢山の内容で行われた。

同窓会長が激励を実施した12日は、実習の最終日にあたり、当日午後に会長が基地に到着した時には、午前中に実習に関する試験及び課題発表を終えた学生が、基地に隣接する資料館の研修を実施中であつたので、会長も1時間程学生と共に資料館を研修した。鹿屋航空基地は、先の大戦中には海軍航空隊基地として、錦江湾対岸の知覧陸軍航空隊基地と共に、多くの特攻隊が出撃して行った場所である。資料館には、海上自衛隊航空の歴史と現状に関する資料と共に、錦江湾から引き揚げられ復元された零戦や、特攻隊員の名簿や遺書等、海軍航空に関する資料も数多く展示されている。部隊実習の締めくくりとして、海軍から海上自衛隊に続く歴史の一端に触れたことは、これからの海上自衛隊を担う防大生にとって有意義な機会であつたものと、担当者の説明に聞き入る彼らの横顔を見ながら強く感じた。



資料館で担当者の話を聴く防大生

同窓会長は、資料館研修に続いて、鹿屋航空基地において第1航空群司令及び第211教育航空隊司令を表敬し、防大生の実習状況及び海上自衛隊の航空部隊の現状等について説明

を受けながら、ひととき懇談した。また、防大生が体験搭乗を行った第1航空隊を訪れ、隊司令自らの説明によりP-3Cの見学を行う機会も得た。



第1航空群司令との歓談



第211教育航空隊司令との歓談



第1航空隊司令による説明

その後会長は、防大生と実習の指導に当たった部隊側幹部との事後研究会会場を訪れ、会の冒頭に、航空自衛隊の戦闘機パイロットとしての自己の経験を引用しながら激励の講話を行った。



事後研究会における同窓会長講話

夕方からは、市内のホテルで開催された基地隊員と防大生との懇親会に参加した。懇親会には、防大卒の隊員のみならず、防大同窓生以外の現役隊員に加えて、鹿児島県防大同窓会副会長、海上自衛隊鹿屋OB会会長、鹿児島県及び鹿屋市の自衛隊父兄会会員も参加して、にぎやかな中にも和気あいあいとした雰囲気の中で行われた。防大生は、制服姿の昼間には、過密なスケジュールの部隊実習により若干疲れ気味にも見えたが、私服姿の懇親会では会場のあちらこちらで同窓会長をはじめとする参会者と元気に歓談する姿が印象的であった。ある学生の談によれば、現3学年海上要員では、例年になく多くの学生が航空適正検査に合格しているとのことであり、多くの学生が今回の航空部隊実習に意欲的に臨んでいるとの印象を受けた。また、何人かの学生との会話を通じて、短い期間の実習であったとはいえ、防大出身の先輩現役隊員だけでなく、同窓会長をはじめとする自衛隊OBの同窓生と接する機会を得たことにより、学生の中で防大生としての自覚が強まったものとの感じも受けた。



懇親会



同窓会長による中締め挨拶

懇親会は、最後に、同窓会長による学生及び現役隊員に対する激励の言葉と乾杯の発声によりお開きとなり、群司令の配慮により23時まで門限を延長された学生は、先輩や同期と連れだって、鹿屋の街に消えて行った。

最後になりましたが、今回の同窓会長による防大生激励に際し、第1航空群司令・杉本海将補をはじめ多くの方々に多大なるご支援をいただいたことに深く感謝いたしますとともに、特に、準備開始の段階から献身的に調整にあたっていただいた、第1航空群司令部作戦計画幕僚・石村3等海佐に紙面を借りまして心から御礼を申し上げます。

(同窓会本部事業部担当 記)